

採卵種鶏供用期間延長に向けた誘導換羽手法の検討

○山本力也¹・阿部静¹・福澤陽生¹・大平進¹・樫孝英¹・木内浩雅¹・美濃口直和²・安藤学²・筒井真理子¹
(¹家改セ岡崎牧場・²愛知農総試)

[目的] 我々は、比較的鶏に与えるストレスが少ないとされる低エネルギー飼料給与法による誘導換羽法について予備的検討を実施し、当該手法が産卵性能及び卵質性能を改善するのみならず、繁殖性能改善効果も示す傾向にあることを日本家禽学会2009年度秋季大会にて報告した。今回は、より実用性を高めるため、低エネルギー飼料区に市販の誘導換羽用飼料を用いる区を加えて、誘導換羽が採卵種鶏の産卵、卵質及び繁殖性能に及ぼす影響を調査した。

[方法] 白色レグホーン種(種鶏:試験開始時約500日齢)を各90羽ずつ5区(絶食区、低エネルギー飼料3区及び無処理対照区)に割り当て、採卵鶏用ケージに1羽ずつ収容した。低エネルギー飼料区は、ふすま主体飼料の制限給餌、市販換羽用飼料の制限給餌及び同飼料の不断給餌絶食区の3区を設けた。いずれの区も点灯時間は14時間とした。調査項目は、体重(各区30羽、期間中26回測定)、産卵率(全羽、全期間調査)、生殖器重量(各

区3羽、合計14回測定)、受精率・ふ化率(各区20羽、処理前1回、処理後3回調査)及びハウユニット・卵白高(各区30個、処理前1回、処理後3回調査)とした。

[結果] 処理に伴う体重、産卵率及び卵巣・卵管重量の減少は、絶食区及び低エネルギー飼料制限給餌区では顕著であったが、市販換羽用飼料不断給餌区は中程度であった。誘導換羽区における産卵性能改善効果は50%産卵到達後、少なくとも11週間継続し、また、卵質性能改善効果は処理74日後まで確認できた。一方、繁殖性能については、処理49日後の受精率が改善する傾向を示し、また、処理49日後のふ化率は改善した($P<0.05$)。しかしながら、それらの繁殖性能改善効果は処理70日後には不明瞭となった。今回用いた換羽誘導手法の中では、市販換羽用飼料の制限給餌が、もっとも高い産卵性能、卵質性能及び産卵性能の改善効果を示す傾向にあった。

採卵種鶏供用期間延長に向けた誘導換羽手法の検討

○山本力也¹・阿部静¹・福澤陽生¹・大平進¹・樫孝英¹・木内浩雅¹・美濃口直和²・安藤学²・筒井真理子¹
(¹家改セ岡崎牧場・²愛知農総試)

演題希望分類：繁殖・生理

(遺伝・育種、繁殖・生理、疾病、飼料・栄養、経営・管理・畜産物利用、より選択する。)

優秀発表賞の対象者：

(講演者が発表時点で満30歳以下の場合は、◎印を付ける。)